

# エリマネジメントDX(エリマネDX)実装化事業実証実験 (大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティ推進コンソーシアム)

## ■都市課題

- ① **公的空間のイベント情報を一元的に確認**できる方法がなく、来街者の街の過ごし方が向上していない。
- ② 複数の公的空間の状況を把握できず、**エリア全域でのウォーカブルな施策を打ち出しにくい**
- ③ エリア防災でのエリアの状態の共通認識化ができず、**客観的・機動的なまちづくり計画の立案と合意形成が図れない。**

## ■解決策

- ① **高度化・一体化されたサービスの提供** 公的空間でのイベントをエリマネ団体自らOhMYMap!へ連携できるようにする。
- ② **エリマネデジタルツインの構築(公的空間)** 計11箇所の公的空間のイベント情報を一体的に管理できるようにする。
- ③ **エリマネデジタルツインの構築(エリア防災)** 防災系データの投入IFおよび一体的に可視化・把握できるビューワーを構築する

## ■KPI

検証項目(KPI)	検証方法	目標
①、②、③ それぞれに対してWebアンケート、ヒアリング、インタビューを通して、KPIをモニタリングする	WEBアンケート	有効傾向の回答80%以上
複数公的空間の一括確認に対する有効性評価	ヒアリング	(定性評価)
計画・合意形成の高度化検討の有効性評価	エリア防災検討会議での確認	(定性評価)

## ■実証実験の概要・目的

- ① **高度化・一体化されたサービスの提供** エリマネデジタルツインから公的空間でのイベント情報をOh MY Map!へ連携し、そのデータによるユーザーの行動変容の有効性をWebアンケートにより検証
- ② **エリマネデジタルツインの構築(イベント)** エリマネデジタルツインによる管理業務をエリマネ管理団体へ定着させることで、高度な運営に向けた検討が行えることをインタビューにより検証
- ③ **エリマネデジタルツインの構築(防災)** 防災ユースケースを実現するエリマネデジタルツインの機能の拡張を行い、エリア防災関係者で合意・ルール化を行う上でのフィードバックを受領

## ■実証実験の内容

### ① 高度化・一体化されたサービスの提供

公的空間のイベント情報をエリマネデジタルツイン上で管理し、都市OSを介してフロントサービスとAPI連携し提供することで、**来街者の行動変容につながる**のか、Webアンケートにより検証する。

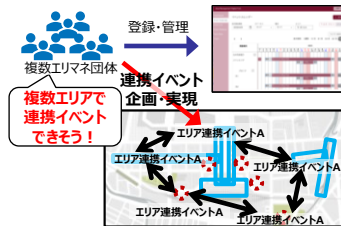
本実証では、来街者向け体験とエリマネ運営を同一データ基盤で高度化した点が技術的な先進性を持つと考える。



### ② エリマネデジタルツインの構築(イベント)

計11箇所の複数公的空間のイベント管理をシステム化するエリマネデジタルツインを構築し、**複数公的空間の可視化・連携によるウォーカブル施策の発展可能性**について、ヒアリング・ワークショップで検証する。

複数公的空間のイベントデータを**1つのDBでエリア単位に統合管理し、可視化・連携可能なデータ基盤**として実装した点に先進性を持つと考える。



### ③ エリマネデジタルツインの構築(防災)

防災関係者保有の防災系データを容易に投入できるIFおよびエリアの現況を一体的に可視化・把握できるビューワーを構築し、**一体的なポテンシャル把握によるエリア防災計画や合意形成に向けた有効性**をインタビューで検証する。

所属の異なる**複数関係者間での計画検討や合意形成に活用可能な防災データ基盤**として実装した点に先進性を持つと考える



## ■実証実験で得られた成果・知見

### ① 高度化・一体化されたサービスの提供

アンケート結果より行動変容にポジティブな割合は**80%を超え、KPIの目標を達成**。行動変容に対し**大丸有ワーカー(フル入社傾向)がポジティブ、非日常寄り目的型来街者がネガティブ**で、課題が判明。

1. アンケート調査実施日  
: 2025年12月8日 -  
2026年1月31日  
2. 調査方法:  
Webアンケートで収集  
3. サンプル数: 315件

イベントデータに高評価	行動変容
80.0%	87.0%

### ② エリマネデジタルツインの構築(イベント)

ヒアリング結果より**複数公的空間の連携に向けたポジティブな意見を多く受領**することができ、**有効性を確認**。さらなるエリア定着および発展に向け、「現場定着」、「エリア共通・個別課題」の**3課題に対処**することを検討。

**受領意見の例**  
「システムを確認してから連携アクションを取れるようになったため動きやすくなる。」  
「今までできていなかった可視化がされて、閲覧できる状態に価値を感じる。」

### ③ エリマネデジタルツインの構築(防災)

会議での意見、アンケート結果より両ツールが**エリア防災計画を検討する会議で有効であることを確認**。計画、合意形成の高度化に向け、**防災会議体での実践的な活用**を行い、システム改善、運用・活用方針を検討。

**受領意見の例**  
「初めての利用でも基本の操作性がわかりやすかったため良かった。」(エリア防災データシステム)  
「同じ情報を素早く伝えることができることは有用だと思った。」(マップビューワー)

## ■今後の予定

- エリマネデジタルツインおよび関連するデータ連携基盤を、「**システム設計からの実装というフェーズからソフトも含め日常的に活用される仕組みへと移行する段階**に入った。
- 引き続き関係団体との対話を重ねながら課題整理し、**持続的に運用可能なモデルとして成熟**させていくことが、次のフェーズに向けた方向性となる。

